

2017年度事業報告 (2017-04-01 ~ 2018-03-31)

I 事業概況

[0] 基本方針・重点課題と成果

1. エスペラント創始者ザメンホフの没後 100 年に当たり、世界エスペラント協会 (UEA) の Zamenhof-Jaro 2017 (ザメンホフ年 2017) キャンペーンに呼応してエスペラント界内外への広報、諸活動を行った。『エスペラント / La Revuo Orienta』(RO 誌) 6、7月号での「ザメンホフ年」特集、日本エスペラント大会でのザメンホフに関する講演、紹介パネル展示など。
2. 韓国のソウルで開催された第 102 回世界エスペラント大会に日本より多くの参加があるよう働きかけた。また 2018 年に国内開催が決まった第 2 回日韓共同開催エスペラント大会の準備を進めた。

[1] エスペラント普及事業

(担当：普及推進部)

[1.1] 基本方針と成果

1. 青年組織を含む国内外のエスペラント団体との協働を進め、関係を強化するように努めた。日本エスペラント大会においてエスペラント会連携推進委員会の名のもと「エスペラント会懇談会」を開催した。
2. 会員との連携を強化し、会員以外の団体、個人を含めた協働の輪を広げた。
3. 広報委員会の活動を軸として一般への効果的なエスペラント広報活動を進めた。

[1.2] エスペラント普及推進事業

1. エスペラント運動の現状把握
「エスペラント運動年鑑 2016」を RO 誌 4 月号大特集として発行した。また「エスペラント運動年鑑 2017」のための情報提供を受け、RO 誌 2018 年 4 月号大特集として発行した。
2. 各エスペラント団体の連携強化、活動支援に努めた。
 - (1) 地方エスペラント大会 (7 大会) に理事長挨拶を送り、6 大会に理事が出席した。
 - (2) 「エスペラント会連携推進委員会」の活動として、日本エスペラント大会中に「エスペラント会懇談会」をテーマ別に 3 回開催し、意

見交換を行い、情報共有に努めた。メーリングリスト (FLES) も情報共有、経験交流の場として有効に機能した。

- (3) 日本エスペラント大会において青年主催の分科会に理事が出席、意見交換を行った。
3. 小坂賞：島谷 剛への授賞を決め、日本エスペラント大会で授与した。
4. 青年エスペラント企画支援金：応募なし。
5. 会員の拡大・定着：団体会員 3 団体減 (60 団体)、個人会員 38 人減少 (1045 人)。個人会員の内、新入会員 30 人、電子版会員 44 人、青年会員 38 人 (個人会員は 2018 年初、団体会員は年度末)。

[1.3] エスペラント広報事業

1. 広報委員会をスカイプで 6 回開催した (4 月、6 月、10 月、12 月、2018 年 1 月、2 月)。
2. ニュースリリース「エスペラントの今」を 4 回発行した。No.10 (5 月)「脱英語依存とエスペラントー『節英のすすめ』」、No.11 (10 月)「世界の教科書ー最初の国語と母語」、No.12 (2018 年 1 月)「エスペラントをロールプレイングゲーム (RPG) で学習する若者たち」、No.13 (2018 年 3 月)「エスペラントで実証実験、SNS アプリ Amikumumu の可能性」。
3. 広報材料の拡充については、エスペラントを効果的に紹介する外国の動画を一般への広報に活用するための準備を開始した。
4. 第 2 回動画コンクールを開催、映像制作の専門学校やネットによる公募を通じて募集を行った。10 作品の応募があった。9 作品は一般からの応募であり、コンクールを通じてエスペラントについて知り、学び応募したことがうかがえ、コンクール開催自体が広報のひとつとなり得ることがわかった。最優秀作品は該当がなかったが、優秀作品 2 点と奨励賞 2 点を入賞とし、日本エスペラント大会で表彰を行った。同大会ではすべての応募作品の公開を行い、入賞の 4 点を JEI のユーチューブサイトで公開した。
5. グローバルフェスタ 2017 (9 月 30 日 ~ 10 月 1 日、東京、お台場) に出展し、活動報告、

エスペラントミニ講座などを行った。多くの青年層の協力があつた。広報チラシ約 800 部、エスペラント紹介冊子約 140 部を配布した。

【2】エスペラントを用いた国際交流事業

(担当：国際部)

【2.1】事業の方針と成果

国際的なエスペラント事業を、特に世界エスペラント協会 (UEA) の日本における国別代表組織として推進し、UEA のアジア・オセアニア委員会 (Azia-Oceania Komisiono = KAEM) と協働した。また日本及び外国からのエスペランティストの各種行事への参加を図つた。

【2.2】国際交流事業

1. 2017 年度に開催された国際的なエスペラント大会への参加、協力を呼びかけた。
 - (1) 第 102 回世界エスペラント大会 (UK) (韓国のソウル 7 月 22 日～29 日) に対し、旅行団を実施し、2 コース計 31 人が参加した。UEA-A 委員 2 人が UEA 委員会に出席し、また Movada Foiro (運動フェア) に出展した。Azia Agado (アジアでの活動) 分科会では日本の運動報告を行った。また会員に対する「参加支援事業」を実施したが、支援金該当者はなかった。
 - (2) 第 104 回日本エスペラント大会(【6.2】1. 参照) 中の関連行事として UEA の Delegito (都市代表者) 分科会、Pasporta Servo (国際無料宿泊網) 分科会を開催した。また東アジア 4 か国の代表団体へ招待状を送付、韓国とベトナムから 2 人が参加した。
 - (3) 青年エスペランティスト国際行動支援金を 3 人に供与した (UK 2 人、他 1 人)。
 - (4) UEA における日本の Ĉefdelegito (都市代表者の国内代表) の交代を行った。
 - (5) 第 49 回韓国エスペラント大会、第 12 回中国エスペラント大会及び第 2 回オーストラリア・ニュージーランド・インドネシア 3 国エスペラント大会に理事長挨拶を送つた。
 - (6) 国際文通サービス：13 件を仲介した。

【3】エスペラント研究教育事業

(担当：研究教育部)

【3.1】事業の方針と成果

1. 教育部門においては、エスペラント学習者

の語学力向上の支援、エスペラント指導者の育成及び指導力強化、教材や資料の提供、学校を含むエスペラント界外でのエスペラント教育に関連する事業の支援等に取り組んだ。ウェブによる学習環境を充実し、若い学習者への支援を強めた。

2. 研究部門においては、エスペラント語学の振興および関連諸分野との交流を含めたエスペラント語論の発展に取り組み、増強を図つた。
3. ハケ岳エスペラント館を本会の研修施設として活用し、エスペラント運動に一層貢献できるようにした。
4. 事業活動の円滑な推進のためには、それらの活動を担う人材の確保と効果的な業務分担が不可欠であるという観点から、研究教育部員及び各種委員の募集に努めたが、充分ではなかった。

【3.2】研究教育事業

1. エスペラント集中学習の機会として、第 50 回エスペラントセミナーを 5 月 3 日～5 日に名古屋市で開催した。3 クラスに計 29 人が参加した。
2. エスペラント指導力勉強会を開始し、継続中である。インターネット・ビデオ会議サービス (ハングアウト) を利用して、9 月～2018 年 3 月に 7 回実施し、各回 5～8 人が参加した。
3. 教育に関する講演とディベート講座を行った (8 月 5 日、講師：ブラジルよりの Josias BARBOZA 氏)。
4. 日本エスペラント協会となつてはじめて「認定講師」の認定を行った (2 名)。
5. エスペラント会館における「秋の入門講習会」は、JEI としての体制が整わず、実施しないこととした。
6. 各種試験
 - (1) エスペラント学力検定試験は、5 月に名古屋市で 3 人、京都市で 1 人、6 月に札幌市で 1 人、7 月に仙台市で 2 人、11 月に横浜市で 12 人、2018 年 3 月に東京都で 10 人、沼津市で 1 人、名古屋市で 6 人が受験した (計 36 人)。
 - (2) UEA の主催する KER 試験 (Komuna Eŭropa Referenckadro、ヨーロッパ言語共通参照枠に基づく試験) を 6 月 17 日にエスペ

ラント会館で実施し、7人が受験した。

7. 「学校に緑の風を」基金による支援を7月に1件実施した。
8. 昨年公開したウェブ版「ドリル式エスペラント入門」の内容を更新し、引き続きウェブサイトを介して質問に回答を行った。
9. 4月～12月に計7回スカイプを利用して部会を開催し、研究教育部の当面する課題について討議した。特に5回にわたって「エスペラント入門30分ビデオ講座」のシナリオを検討し、次年度に具体化を行う予定。
10. 文芸コンクールを実施し、8件の応募から6件の入賞作品を選び、日本エスペラント大会で表彰した。
11. 日本エスペラント大会の研究発表会で4件の発表があり、『2017年度日本エスペラント協会研究発表会予稿集』を発行した。

【3.3】ハケ岳エスペラント館における事業

1. 4月9日に開館し、11月17日に閉館した。延べ利用者数は運営委員を含み401人。
2. 昨年度よりの寄付金体系を引き続き実施した。
3. 運営委員は16名体制を維持した。
4. 「春のハケ岳エスペラント館の日」の行事を4月21日～23日に実施し、12人が参加した。
5. 第19回エスペラント漬け合宿(NEK)を8月26日～28日に実施し、15人が参加した。
6. 「秋のハケ岳エスペラント館の日」の行事を9月16日～18日に実施し、16人が参加した。
7. 今年度は年次計画による修繕工事はなかったが、開館中は運営委員と利用者の協力により、清潔で利用しやすい施設が維持できた。

【4】エスペラント雑誌の刊行事業

(担当：編集部)

【4.1】事業の方針と成果

雑誌『エスペラント／*La Revuo Orienta*』(RO誌)を年11回発行し、エスペラントの普及発展に資した。

【4.2】雑誌刊行事業

1. RO誌を毎月(8、9月は合併号)刊行した(電子版、音声版を含めて)。発行部数は1300部。
2. 他部門と連携し、大特集号ないし号外を発行した：4月大特集(エスペラント運動年鑑2016)、11月号外(JEI在庫図書カタログ)、

2018年2月号大特集(第104回日本エスペラント大会報告書)。

3. 拡大編集会議を2018年1月6日に実施した。

【5】エスペラント図書等の刊行及び頒布事業 (担当：出版部)

【5.1】事業の方針と成果

1. エスペラントの学習、エスペラントに関する文化の発展、エスペラント普及に資する図書出版活動を行った。
2. 内外のエスペラント図書を仕入れて販売した。また内外のエスペラント雑誌購読を取り次いだ。

【5.2】図書刊行事業

1. 図書の発行
 - (1) 第104回日本エスペラント大会記念本を発行あるいは支援した。『神奈川とエスペラントー神奈川県エスペラント運動史』を11月に発行した。
 - (2) 『*La nanoj en domo kun granda zelkovo* (木かげの家の小人たち：いぬいとみこ作)』板橋満子訳を7月に発行した。
 - (3) 『日本語エスペラント辞典(宮本正男編：1983年発行)』の語彙検索可能なDVDを6月に発行した。
 - (4) 『エスペラント日本語辞典』の第2版を12月に発行した。
2. 今後の出版物の計画
『新日本語エスペラント辞典』(仮称)の編集委員会を4回開催した。完成予定は未定(2023年を目安)。

【5.3】図書頒布事業

1. エスペラント書籍の販売、取り次ぎを行った。
2. 発行した『JEI在庫図書カタログ』(RO誌11月号外)を利用して、エスペラント図書の拡販に努めた。パソコンゲーム([7.2]7.参照)をきっかけにエスペラント学習書および辞典の販売部数が大幅に増加した。

【6】エスペラント大会主催事業

(担当：大会組織部)

【6.1】事業の方針と成果

2017年の日本エスペラント大会を開催し、大会を継続して開催する体制の整備を進めた。

【6. 2】日本エスペラント大会主催事業

1. 第104回日本エスペラント大会（横浜市、11月3日～5日）
 - (1) NPO法人エスペラントよこはまと共同主催、並びに神奈川エスペラント連盟協力で開催し、大会テーマは、「港はつなぐ、エスペラントはつなぐ」“Haveno peras, Esperanto peras”。
 - (2) 459人が参加した。実参加は355人、うち外国からは11か国23人。
 - (3) 青年招待
横浜の姉妹都市、フィリピン・マニラ市より大学生 Albert Stalin Garrido Tancinco をアジア青年として招待した。
 - (4) ザメンホフ没後100年関連としてポーランド広報文化センターの協力による、ザメンホフ紹介パネル展示（ポーランド外務省が没後100年を記念して制作したものを翻訳）および招待講演（ポーランドエスペラント協会事務局長 Robert KAMINSKI 氏による）を行った。同センター所長他1人が開会式に出席した。
 - (5) 大会実行委員会で企画した様々な講演会、「Hamalogio」として横浜に関しエスペラントで紹介する小講演6本、「エスペラント文化講座」、「エスペラントを深める講座」、「外国人エスペランティストの講演」などが盛況であった。異色な分科会としては「アメリカ分科会」があり大会参加者以外も多数参加した（【7.2】7.参照）。
 - (6) 大会記念品としては、『神奈川とエスペラントー神奈川県エスペラント運動史』（【5.2】1. (1) 参照）と『Gvidlibro pri Jokohamo kun Eseoj Hamalogiaj, 2017』（横浜案内とエッセイ、Mevo-Libroj 11月発行）があった。
2. 第105回日本エスペラント大会（第2回日韓共同開催エスペラント大会、奈良市、2018年10月12日～14日）大会テーマ、大会エンブレムを決定し、準備を進めた。
3. 第106回日本エスペラント大会（2019年）を埼玉県で開催することを決定した。

【7】その他事業及び法人の管理

（担当：総務部、財務部、ウェブ管理部）

【7. 1】事業の方針と成果

1. 本会のエスペラント事業の核となる会員の

活動を支援し、会員層の拡大を図った。

2. 各事業部門と連携し、事業が円滑に行われるよう支援した。
3. 本会のより効果的な管理・運営方法の確立に取り組んだ。

【7. 2】総務部担当事項

1. 総務部の職務（庶務、会員管理、エスペラント会館管理活用、役員支援など）を事務局および関連委員会（選挙管理委員会、小坂賞委員会）の協力を得て着実に実行した。
2. 事務局の課題には、財務部とともに事務局会議を定期的に（隔月で）開き、緊急の課題にも対応した。
3. 図書館関連事業では、寄贈図書 of 整理を行い、図書館蔵書目録のパソコン入力を引き続き行って、図書館の整備を進めた。ボランティア確保が困難なため、図書整理はあまり進まなかった。図書販売促進のために、寄贈図書の値下げ販売などを行った。
4. 『JEI在庫図書カタログ』を図書販売部門と協力して、3年ぶりにRO誌11月号外として発行した。（【4.2】2. 参照）
5. 国際部と協力して、第102回世界エスペラント大会（韓国ソウル）へ向けて参加旅行団を企画、実施した。（【2.2】1. (1) 参照）
6. 第7回「エスペラントの日」記念公開講演会をエスペラント会館で開催した（6月10日）。講演者は木村護郎クリストフ氏と伊藤哲司氏、64人が参加した。ザメンホフ没後100年の関連でポーランド広報文化センターの後援を得た。
7. エスペラントを利用したパソコンゲームに使用するエスペラント文の翻訳・校閲の翻訳仲介事業を行った。
8. 本会事業の継承ができるよう、資料の電子情報保管庫としてDropboxの共有フォルダを使ったシステムの試行を開始し、理事・協議員・事務局が閲覧可能とした。一部の部でも使用を開始した。

【7. 3】財務部担当事項

公益目的支出計画および長期予算計画との整合を取りつつ、中長期的な視野の下に堅実な収支運営を図り、本会事業の執行を財務面から支えた。

【7. 4】ウェブ管理部担当事項

本会ウェブサイト、フェイスブック、ツイッター、エスペラント会懇談会のウェブサイトにて、エスペラントやその活動の広報、会員への情報公開サービスを行った。

II 庶務事項

1. 会議の開催

- (1) 評議員会：6月18日
- (2) 理事会：5月21日、2018年3月25日
- (3) 業務執行理事会：9月10日、2018年1月21日
- (4) 副理事長会：4月14日、7月7日、11月17日、2018年2月16日
- (5) 監査：5月20日
- (6) 協議員会：5月21日、2018年1月21日
- (7) 会員総会：11月5日、第104回日本エスペラント大会会場内

2. 会員：1108（2018年初、個人会員1045、団体会員63）

3. 役員・職員等の人事

- (1) 評議員・理事・監事・協議員：変更なし
- (2) 顧問：新任1人（ウルリッヒ・リンス氏）
- (3) 協議員による理事及び監事候補員申選挙：2018年3月に告示。
- (4) 職員：相川拓也（会計）採用（2018年2月7日）、大西房子（会計）退職、石野良夫（事務局次長）退職（共に2018年3月20日）。

（以上）